

# 提言書


～魅力ある子育てタウン創造に向けて～


平成24年 5月30日


松戸市長 本郷谷 健次 様

松戸市次世代育成支援行動計画推進委員会


会 長 齊藤 進  (日本家庭子ども総合研究所主任研究員)

副会長 沖 和汎  (児童養護施設晴香園次長)

委 員 鈴木 悦朗  (松戸市私立幼稚園連合会会長)

委 員 杉本 景子  (松戸市保育園協議会役員)

委 員 梶間 美江子  (松戸市小学校長会)

委 員 神谷 明宏  (聖徳大学児童学部児童学科准教授  
・こども環境学会理事)

私たちは、子どもと子育ての専門家として、これまで松戸市の子育て施策の総合的な評価を行い提言してまいりました。このたび、プロジェクト設置より1年余りが経過し、その方向性と進捗状況について市の子育て担当部長より説明を伺いました。

そこで、「松戸で子どもを生み、育てたくなる魅力ある子育て環境をつくるために必要な施策を推進します」という使命(ミッション)が実現されるように、私たち松戸市次世代育成支援行動計画推進委員会として提言いたします。

魅力ある子育てタウンとはどのようなまちでしょうか。

私たちは子どもと子育て世代の市民にとって、以下のようなまちであるべきと考えます。

- 1 子どもと保護者が気軽に訪れて楽しめる魅力のある場所がある。
- 2 子どもたちが近所の人たちと交流し地域のつながりを感じることができる。
- 3 近所の人たちが子どもの安全を見守っている。
- 4 自然・歴史・文化を大切にし、それらを生かした活動ができる。
- 5 魅力ある教育環境が整備されている。
- 6 子どもたちや子育て世代の意見が尊重され、反映される。

このようなまちとなるためには、これまでのプロジェクトの取組みに加えて、子育て担当部だけでなく、市全体で総合的に取り組むことのできるような新たな施策の展開が必要です。

こうしたことから次の3つの提言をいたします。

## 提言1(子どもたちと地域のつながり)

子どもたちが大人とのつながりを感じながら成長できる地域をつくるため、コミュニティづくりを一層強化することが必要です。あわせて市内の大学(聖徳大学、流通経済大学、日本大学、千葉大学)を活用した子どもや子育て中の家庭と大学生との積極的な交流が必要です。

松戸市が魅力ある子育てタウンとなることは、行政だけで実現できることではありません。松戸市民や松戸市に勤務している人や通学している人たちにとっても魅力があることが必要です。松戸市では既に、地域住民と子ども・子育て家庭の交流が、小中学校、保育所、幼稚園、おやこDE広場などでも積極的に行われています。また、子育てみらいカードを使った「まつドリーム事業」により市内の事業者による子育てを応援する取り組みもされています。

市内には、4つの大学があり多くの学生が通学していますが、さらに松戸市が魅力のある街となるためには、その大学と連携し、例えば「こどもカフェ」などの様な子どもを中心として地域とともに大学生を巻き込んだ、目に見える形のイベントや取り組みを行ってはいかがでしょうか。大学生の活躍が地域の交流や活性化に成果をもたらし、次の時代の親になる世代のプレ教育として、また、若い世代に松戸市の歴史や文化的な魅力を伝える事ができるなど大きな効果が生まれると考えます。

## 提言2(子どもと子育て世代の魅力づくり)

松戸市で育った子どもたちが松戸市に誇りを持ち自分の可能性を信じて成長することができるように、子どもや子育て中の市民にとって新たな魅力を持つ松戸市のシンボルづくりや健やかな子育てシステムの強化が必要です。

松戸市には児童館が 1 館しかなく、子ども読書推進センターなどの図書館施設も子どもたちにとって十分に魅力のある施設とはなっていません。

松戸市が子ども・子育てに力を注いで取り組んでいる姿勢を伝えるためにも、また、「松戸市にはこんなものがある、これから引っ越ししたくなる」と感じられるようにするためにも、例えば、松戸ビルの最上階や子ども読書推進センターなどを「子育て未来館」として、子どもたちの児童館のような機能や保育所の休日保育を担保するような総合施設として整備し、その施設においてプログラムを策定し、松戸中央公園や 21 世紀の森と広場などを子どもたちが楽しく文化を感じられるような空間として事業展開を行ったりしてはいかがでしょうか。

加えて、子どもや子育て中の市民にとっての新たな市のシンボルとして市民に親しまれ愛される場所が必要です。そのためには、それを総合的に展開できる人材の育成を行うことや、単なる遊び場や施設整備をするだけではなく、遊びや体験を通して子どもの成長を支え、個々の家庭や地域全体の課題を視野に入れた子どもの生活を支援するコミュニティワーク施策を推進できるようにすることが必要です。

### 提言3(子どもを中心とした市の組織改革)

子どもたちの意見を市政に反映するために、子ども・子育てを中心とした横断的な取り組みを実行できる行政組織への変革が必要です。

子育て担当部以外にも公園、駅前の活性化、防犯、地域づくり、社会教育施設など魅力ある子育て施策に関わる部署は多岐にわたっていますが、部署毎に縦割りの施策を推進しているため、松戸市全体として子ども・子育て政策を大きく推進しているという事がまだまだ市民に伝わっていないように感じます。

松戸市が子ども・子育てに力を注いで取り組んでいる姿勢を伝えるためには、子育ての担当部署の取り組みを支え、子どもと子育て支援に関する総合的な施策を推進する組織の設置が必要です。

組織を変えるだけでなく、組織体質を変えるための取り組みや、民間の活力を生かした取り組みとして、例えば、毎年行われている「まつど・こどもフォーラム」も、1回の意見発表だけでなく各部署の職員が出席して直接受け止め子どもたちから出された意見の実現、「子育て未来館」を整備するためのプロセスにおいて、さまざまな関係者と一緒に子どもや子育て中の市民が参画して施設作り、子どもや子育て世代の意見を反映する機会として「0歳からの選挙権」など市長選挙や市議会議員選挙などに合わせた「子ども選挙」の実施など、行政のさまざまな部署が、子どもたちや子育て中の市民の意見を受け止めて政策実現する姿勢を持つことが必要です。

子どもたちは、自分の意見で変わる街であるならば、松戸市を誇りに感じ住み続けたいと思うのではないのでしょうか。